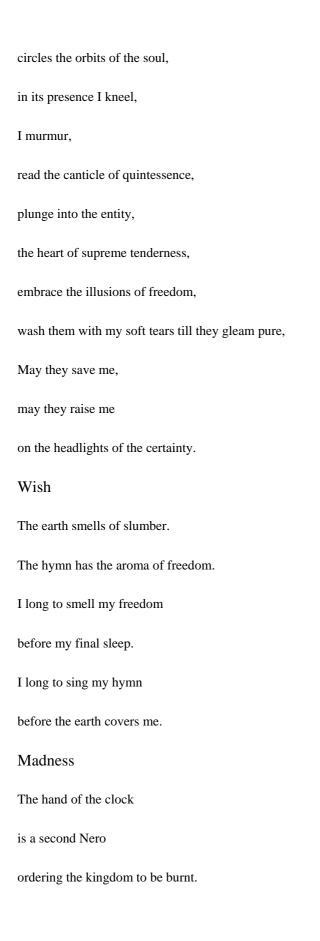
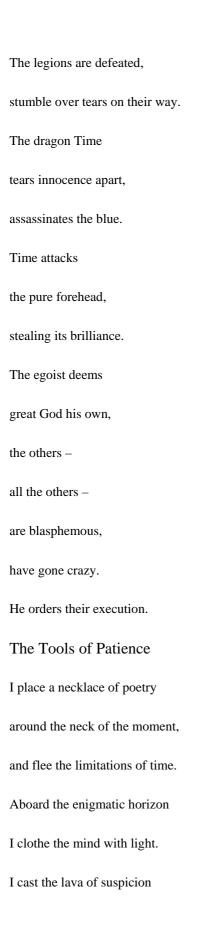


# Along the quay of brief time I ride the pulse of eternity. From the fragility of the moment, I invent motives for immortality. Borne through a crack by a rare gleam, I hurtle towards the festival of light, the fire of my smile melting the direst of pains, moulding pearls of life, spinning the moment on the loom of amazement. The Orbits of the Soul In the orbits of the soul circles my true star. That is where I wander at dawn, there I park my tired caravan. My mysterious and faithful star awaits me always at the turnings of time on the slopes of the storm.

My true star

The Pulse of Eternity





into the flaming furnace. Employing the tools of patience I tame the heat of the deserts, employing the philosophy of generosity I attain laurels of riches. and at the peak of death nihilism. I embrace the miracle of survival. The Dance of Destiny I threw my memory into the planet its cry crept back to my ears as silence resounding till it pained me. My memory, you, myself who committed suicide by light, my life, racing away fleet of foot. My memory, I will remember you, pray for you, recreate your image, hang it from my eyelashes in front of destiny wich waltzes over my eyelids.

Nature's Tenderness

After some moments

we have to leave the place.

The tree looks at us.

We both go

with dew on our hair

the leaves weep,

saying farewell

.

# アナン・アード(レバノン)

## 自己犠牲

わたしの顔はむかし崩れた

幾歳月のあいだ顔なしに生きた、

泣くこともできなかった。

目も壊れていたから。

鏡は黙して語らない、

世界に鍵をかけた。

わたしの顔は砕けた

宇宙は揺れた

わたしの顔は粉々になった

そしてわたしのこころは霜の近づく歩みを聞いた

でも拒まれて抗することもできなかった

云われたことは:わたしを壊せ、奴が顔を崩したように

しかし寒さ、暗さと鞭が蔓延するところで。

愛の光線ごときものわたしに浴びせよ

砂漠のなかわたしの遺骨を埋めよ

すると奇跡が通りかかるだろう

砂漠のなかにわたしの遺骨を埋めよ

すると砂は百合やジャスミンを生むだろう

傷のへりについているわたしの血を撒けよ

すると傷という傷がバルサム(香油)となるだろう。

## 永遠の鼓動

短い時の波止場に沿って

永遠の鼓動に乗る

一刻の脆さから

不死性の原動力を創出する

ありえぬ閃きの亀裂のなかを運ばれて、

わたしは光の祝祭めざし飛んでゆく、

微笑の焔が

痛みの端々を溶かし

いのちの真珠を鋳造し

時を紡ぐ、

驚嘆の織機のうえに。

魂の軌道

魂の軌道に

わたしの真実の星は回旋する

夜明けに彷徨う場所、

草臥れたトレーラーハウスを止める場所

わたしの神秘なる信仰の星が

いつも待っていてくれる場所を。

時の帰還

嵐吹きすさぶ丘陵に

わたしの真実の星は

魂の軌道を回旋する。

膝まづくその時に

わたしは呟く、

真髄の讃歌を読む、

永遠に突入する、

優しさ極まるこころが

自由の幻想を抱き締める、

柔らかな涙でぴかぴかになるまで洗う。

わたしを救いたまえ

わたしを起こしたまえ

近づくヘッドライトの灯りよ

祈り

地球はまどろみを感づいている

讃歌は自由の芳香がする

最後の眠りに就くまでに わたしは自分の自由を感じたい わたしは自分の讃歌を詠いたい 地球がわたしを覆うまえに 狂気 時計の針 それは焼亡の王国を指図した ネロの手だ 軍団は敗北し 道道よろけて涙する。 龍の刻 無垢な涙は散り散りとなり その青を暗殺する。 時は攻撃する 純な額(ひたい)を その輝きを盗みながら。 利己主義者は考える 偉大なる神は自身なのだと 他人は すべて他人は---冒涜するもの

狂気となり

処刑を命ずる。

## 忍耐の道具

わたしは詩のネックレスを

刻の首に飾る

そして時の限界から退避する

謎めいた水平線に乗り

光をこころに纏う

懐疑の溶岩を

焔を立てている炉に捨てる

忍耐の道具を使い

砂漠の熱に慣れる

寛大さの知恵を使い

富裕層の桂冠をさずける

そして死のニヒリズムの極致で

生還の奇跡を抱く

## 運命の舞踊

憶い出を宇宙に投げた

その叫びが徐々に戻り耳に届いた

沈黙のように、痛くなるほど響いた

わたしの憶い出、あなた、わたし

光で自らいのちを絶った者

わたしのいのち、足の艦隊で大急ぎ運べ

わたしの憶い出、

あなたを忘れない

あなたのために祈る

あなたの姿を再生し

睫毛にかけておく

運命の前で

瞼の向こうでワルツを踊る

自然の優しさ

ある時がすぎれば

わたしたちは去らねばならない

木が見ている

どちらも仕方なく進もうとする

髪は露に濡れて

葉っぱが泣いている

さよならと言いながら。

Japanese Translation by Mariko Sumikura



#### **Profile**

Hanane Aad is a Lebanese poet, journalist (TV, Radio and Print Media)

living in Vienna, Austria. She has 5 books, the latest "

My Freedom I carry in my Mouth" (2010).

Her poetry is translated into 15 languages: German, English, French,

Spanish, Italian, Dutch, Turkish, Hindi, Malayalam, Bosnian, Bulgarian...

She recently won the Award for Excellence in Foreign Poetry at the Poesis

Festival Satu Mare, and in November 2012, an exhibition about her poetry

and itinerary took place in Vienna, Austria. She gave readings in France,

Germany, Austria, Netherlands, Romania, Turke, India, Bosnia, Bulgaria,

Macedonia, Estonia, Poland and Lebanon.

#### Official Website

#### プロフィール

アナン・アードはオーストリア・ウィーンに住むレバノン詩人、ジャーナリスト(テレビ、ラジオ、出版メディア)。五冊の本を出版している。最新刊は2010年の「My Freedom I carry in my Mouth」

彼女の詩は15か国語に訳されている。ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、トルコ語、ヒンズ一語、マレーシア語、ボスニア語、ベルギー語・・・最近、サツマーレ詩祭の外国詩優秀賞を獲得した。そして2012年11月、オーストリア・ウィーンで彼女の詩にかんする展覧会があった。彼女は朗読をフランス、ドイツェ、オーストリア、オランダ、ルーマニア、トルコ、インド、ボスニア、ベルギー、マケドニア、エストニア、ポーランドおよびレバノンで行なっている。

#### 公式ホームページ